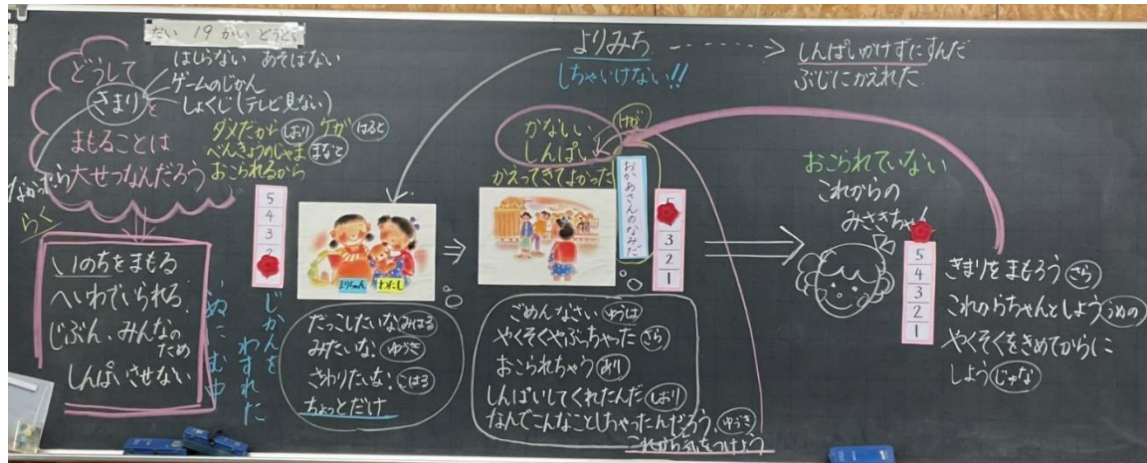


道徳便り

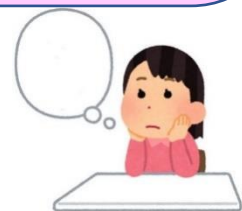
学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

1年生は道徳の授業できまりや規則について考えました。



主人公が、寄り道は悪いとわかっていながらしてしまい、自分を探す先生や母親に出会って、寄り道を軽く考えしてしまったことの重大さに気付くというお話です。はじめに学校や家庭ではどんなきまりがあるか、なぜきまりを守るのかについて話し合いました。「ろうかを走らない」「ゲームの時間を守る」などが出てきました。「ダメなものはダメだから」「怒られるから」ときまりを守る理由を素直に教えてくれました。

主人公の気持ちの変化を捉えやすくするために、「レベルメーター」という道具を使って考えていきました。



- お母さんの涙を見たみさきさんは、どんなことを考えていたのかな。
- 約束をやぶっちゃったから怒られちゃう。
- 心配してくれたんだ。
- 寄り道しなければよかった。
- なんでこんなことしたんだろう。次からは気を付けよう。
- 今回の学習で、わかったことや考えたことはなにか。
- きまりを守れば、みんな平和でいられる。
- きまりは自分やみんなのために守らなきゃいけないもの。
- これからも寄り道せずに帰ろう。
- きまりを守って、家族に心配させないようにしたい。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

2年生は、親切・思いやりに関する道徳の授業で、親切の良さについてより深く考えました。

かっぱわくわく

かっぱのかんすけ、すっく、ざんざは、のんのん野原に遊びに行きます。その途中、かんすけは困っていた小鳥や子ギツネに大事な皿のお水、わくわく水を分けてあげます。それを見てすっくとざんざは、「あとでへなへなになってもしらないよ」と声をかけます。

しかし、のんのん野原の帰り道、三人は迷子になります。その時にたすけてくれたのは、さつきかんすけがわくわく水を分けてあげた小鳥と子ギツネ。

自分たちが親切にしてもらったことで、親切の良さに気づいたすっくとざんざは、帰り道に転んだかんすけに、自分たちのわくわく水を分けてあげるというお話です。



親切・思いやり

●なぜ親切にするとよいのかというと、みんなに親切をしたらみんながいきもちになって、うれしくてみんなが親切をするようになるからだと思います。

●なぜ親切にするとよいのかというと、みんなが親切にされるとたすかるし、親切にもらうとみんなが親切をして、みんながたすけあってその親切が広がっていつてみんながたすかるからです。

●親切にするとあげると親切にもらった人もきもちがよくなります。そしてわたしも親切をくりかえしたいし、やっぱり親切は大切だなと思いました。

●なぜ親切にするとよいのかというと、親切にすると心がつながって、おたがいやさしい心がつながると、親切がつづいていくかもしれないからです。

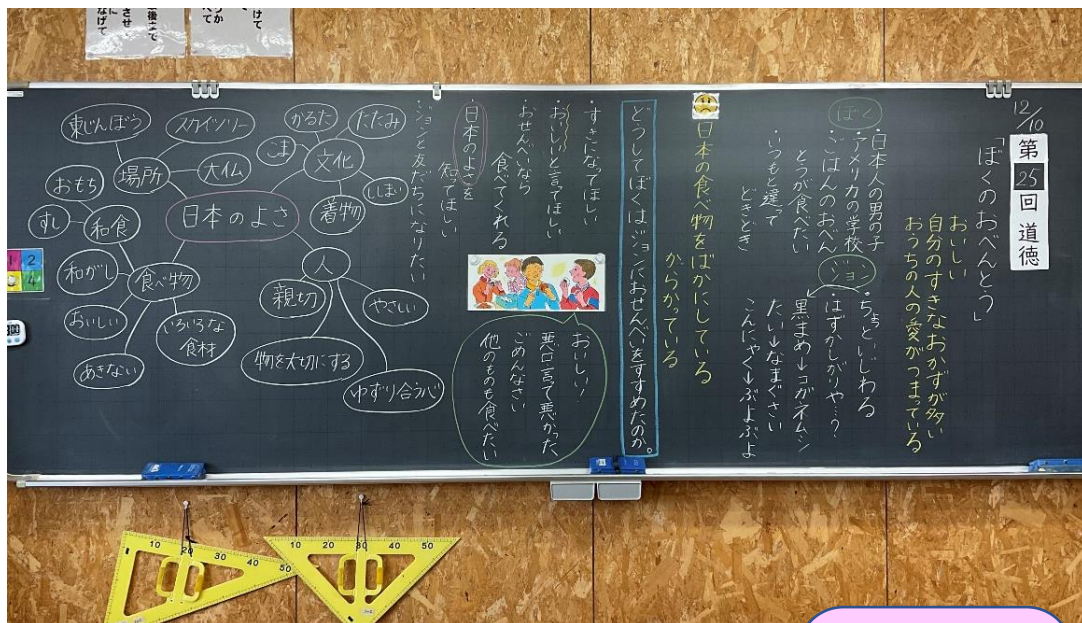
前回の親切・思いやりの学習で、子どもたちは「親切な行動は、親切にされた人だけでなく、親切にした方も嬉しい気持ちにする」ということに気がつきましたが、今回の学習では、さらに、「親切はつながっていく・ひろがっていく」ということに気づくことができました。



道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

3年生は道徳の授業で「我が国や郷土の伝統と文化」について考えました。



日本では、当たり前前に食べている「おべんとう」を通して、外国との感じ方の違いに気付き、日本のよさに自信をもって行動しようとする主人公の気持ちに共感しながら考えを深めていきました。授業の最後には、日本の文化のよさについて話し合いました。

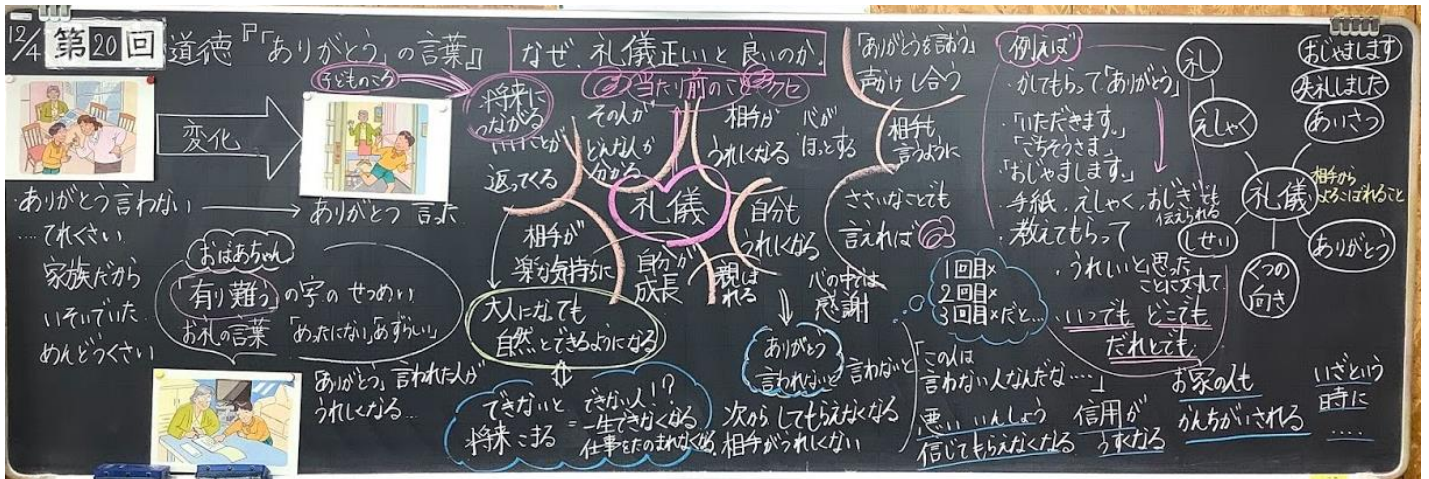
- ・ぼくは、日本のよさをさがしたいと思いました。それをリロイ先生に伝えたいと思います。
- ・この話を読んで、日本のよさを外国の人に知らせたくなりました。
- ・日本のよさがたくさんあることが分かって、ちよつとうれしくなりました。外国の食べ物も食べてみたいし、外国のよいところも知りたくなりました。
- ・日本には日本のよさがあるように、外国のよさもあると思うので、知っていききたいです。
- ・わたしも日本のおべんとうが大好きです。これからも日本の文化や食べ物など、日本を大切にして、日本のことをまだまだ知りたいです。
- ・日本のよさは、いろいろあるので、みんなて守っていききたいです。
- ・日本には、数え切れないほどの文化や伝統など、よさがあると分かりました。それらを大切にしていききたいです。
- ・もしわたしがアメリカに行き、学校におべんとうを持って行ったら、「これ、食べてみる？」などと言って、おべんとうのよさを知ってもらいたいなと思いました。



道徳便り No.3

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

4年生は道徳の時間で、礼儀の意味や大切さを知り、誰に対しても礼儀正しく真心を持って接すると、どんな良いことがあるかについて考えました。



主人公のひろしは、お小遣いをくれたおばあちゃんや、帽子を拾ってくれた人に、照れくさくて「ありがとう」を言うことができませんでした。ある時ひろしは、手紙を書いていたおばあちゃんの「有り難う」の文字を見つけ、その意味を教えてもらったことで、今までの自分についてしばらく考え、感謝を伝えるために出かけていきました。

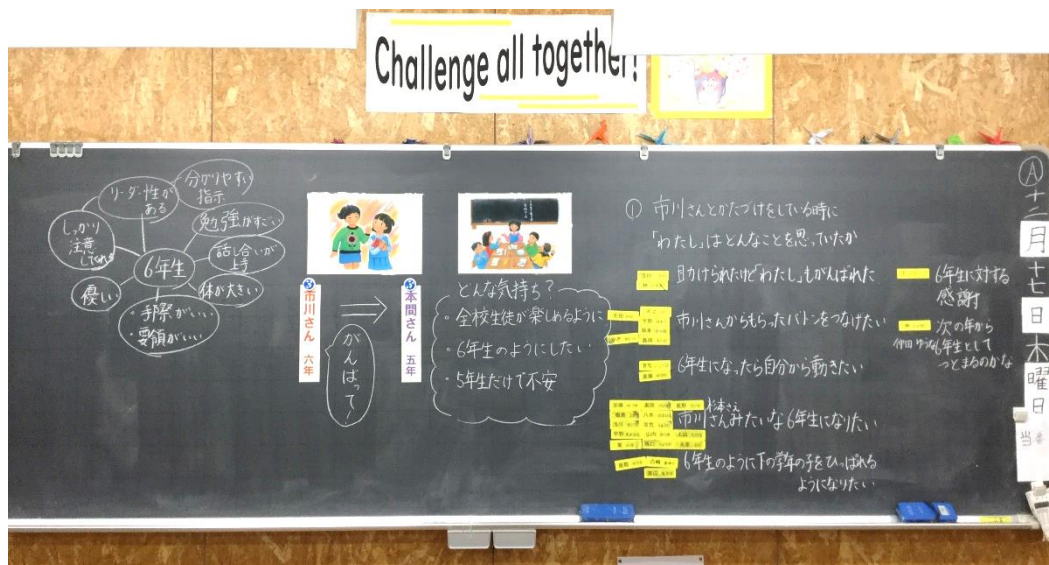
授業では、主人公の気持ちの変化について考えた後、なぜ礼儀正しくするのか、礼儀正しいとどんな良いことがあるのかについて話し合いました。また、具体的にどんなことができるか良いのか考えました。

- 礼儀ができる人は相手の気持ちを考えられる人なのだと思います。当たり前のことが当たり前にできるのがいいと思います。
- 僕は、礼儀正しくしていきたいと思います。相手に嬉しいと思ってもらえることで自分も嬉しいと感じられるから積極的にやっていこうと思います。
- 今のうちから礼儀正しくする癖をつけていけば、将来、大人になっても当たり前のようにできるのだと思います。
- 礼儀正しくするのは、人間関係を良くするための方法の一つなので、人前では礼儀正しくしたいと思っています。
- 礼儀は大切だと思いました。「ありがとう」は言わないと相手に気持ちが伝わらないので、ばくも「ありがとう」を言うようにしたいです。
- 礼儀について学び、「有り難う」の意味を知ることができました。
- 礼儀を当たり前のようにできる人になりたいと思いました。礼儀正しくなれば、相手も嬉しくなるし、自分も嬉しくなります。大人になってもとても役に立つと思うので、今のうちにマスターしたいし、クラスみんなできれば、もっと良いクラスになると思います。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

5年生は道徳の授業で「よりよい学校生活」について考えました。



集団生活の
充実

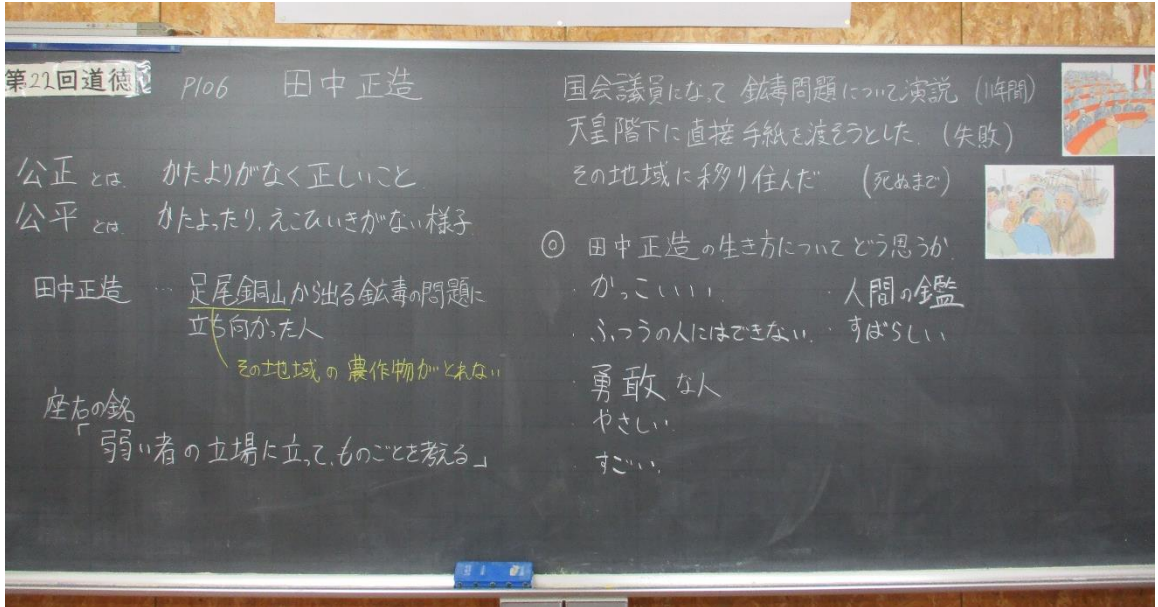
6年生を送る会に向けて準備を進めていく5年生。不安な気持ちを抱きながら当日を迎えます。6年生に助けられながら無事に送る会を終え、6年生の頼もしさを実感しました。頼りにされる6年生に成長したいと決意しました。

- 私は、今後最高学年として、下の学年を優しく引っ張っていくようにしたいです。
- いつも6年生は、いろいろなところでみんなをまとめる役割をしています。来年からは自分たちがするという自覚をもちながら、少しずつがんばっていきたいです。
- 私は、1学期の委員会で6年生に助けられた覚えがあります。助けられたことを思い出しながら次の5年生を助けたいです。
- 私は、来年6年生がいなくなり、本当に自分たちだけで大丈夫かなと思いました。
- 5年生が中心になって物事を進めていくことの難しさが分かりました。他の人と協力しながらしたいと思いました。
- 私は、何かを企画することはいらないけど、もしもすることになったとしても不安な気持ちになると思いました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

田中正造さんの社会正義を貫いた考え方や生き方を学び、自分に生かせることはあるだろうか。



公正・公平

振り返りより

- 田中正造さんが、十一年も国会で演説し続けているところが印象に残りました。自分一番ではなく、他人を一番に考えるのがかっこいいと思いました。(N)
- 田中正造さんが訴え続けたから、農民の人たちも救われたと思います。この話は今までの道徳の中でもっと知りたいと思いました。(S)
- 自分の一生をかけて立ち向かったのは、すごいことだと思ふし、ふつうの人には簡単にできることではないなと思います。(N)
- 私も違う形で人の助けになることができればいいなと思いました。(Y)
- 田中正造さんに限らず、このような生き方をしている人、誰かのために人生をかける人は素晴らしいと思います。歴史に名を残す人々は勇敢でかっこいいと思います。(S)
- 生き方が素晴らしいと思いました。座右の銘を常に心の中においているからです。私の尊敬する人の一人になりました。(A)

足尾銅山の鉍毒問題を解決するために生涯をかけて闘った田中正造。その根底には、小さい頃母から教わった「弱い者の立場になって物事を考えること」という考えがありました。その生き方から公正・公平とは何かを考えました。